

たはら 歴史探訪 クラブ 其の39

TAHARA
History Inquiry
Club

ちよっぴり昔の建物

「建造物」などといかめしい呼び方で、国や自治体の文化財に指定されている建物があります。それらは古い寺や神社であったり、いかにも手の込んだ造作の大きな建物だったりします。しかし近年では、明治時代以降の建物も見直され、注目されています。これらの時代は、急速に建築素材・技術が進歩し、生活様式も変化し、さまざまな様式の建物が試行錯誤のうえ建てられてきました。建物は、利用目的やその地域の産業・文化・自然環境が外観に表

てくるものです。今回は、それらちよっぴり身近な昔の建物をご紹介します。

田原市民俗資料館



校舎として建設された当時の姿（南側）



現在の田原市民俗資料館（北側）

昭和5年に、田原町立技芸専修女学校、田原町立中部尋常小学校の校舎として建設されました。当時は渥美半島初めての鉄筋コンクリート造校舎として話題を集めたようです。2階建て瓦葺の建物で、当時としてモダン

な建物だったに違いありません。近年建設された校舎より天井が高くゆつたりとした空間となっています。また、ほぼ同時期に建設された現在の田原中部小学校の西校舎も、柱と天井の空間が非常に良い雰囲気のものとなっています。

養蚕住宅

この地域を代表する建物である養蚕住宅は、養蚕業に携わった方の住宅です。渥美半島は県内でも養蚕が盛んな地域で、当時、確実な現金収入源として、農家・漁師の副業的（実際は主体）な産業として明治から戦前まで栄えました。

蚕を飼育するため住宅は屋根裏を改造して蚕室とし、新築の場合は蚕室兼用の住宅を建てました。敷地などに余裕のある家では離れに蚕室を建てましたが、普通の家では住宅と兼用の蚕室でした。もともと盛んな時代において大規模に養蚕を行った家では、1階に8畳の部屋が三間続きという広い空間を作り、なおかつ2階にも広い部屋を作った家もあります。そのような家の方にお話を聞くと、2階で風揚げができた、と言います。このような広い家でも、主役は「かいこさま」です。一番奥の仏間の横にある4畳ほどの小部屋



現在も住居として活躍する養蚕住宅（2階のたかが低い）

が家族の寝室で、大人数の家族が窮屈な思いをして寝ていました。一階の床下にはオンドルと呼ばれる蚕のための暖房施設がありました。また少しでも空間を広くするため、壁の間仕切りをなくしています。すべてが養蚕のために考え出された建物であり、そのための生活様式でもありました。ここまで住居環境に影響を与えた産業はないでしょう。

このように、市内の至るところに地域の歴史を物語る住宅が残っていましたが、最近では建て替えなどによって急速に失われつつあります。

生涯学習課 ☎ 23局35331

（増山）